

第3回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日 時 平成28年6月24日(金)10:00～11:45

2 場 所 福知山市役所5階全議員協議会室

3 出席者

委員	青山委員長、大久保委員長職務代理、菊田委員、中井委員、細見委員
福知山市	長坂室長、山中課長、岸本補佐、外賀主任、大槻主査、横山囑託

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	中期計画について	【資料1】【資料2】【資料3】【参考1】により中期計画を説明
2	役員の報酬等の支給基準について	【資料4】【資料5】により役員の報酬等の支給基準について説明
3	意見交換・質疑等	<p>(主な意見)</p> <p>【中期計画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■人事評価制度は、組織を動かすには非常に大事だが、場合によって教職員の意識低下に繋がりがねないので、慎重に検討していかなければならない。 ■評価委員会では年度実績に係る点検等は年1回だけということになっているが、年1回の検証だけに限定せず、危機意識を持って日々の点検を大切にしていきたい。 ■中期目標・中期計画・年度計画は常にリンクさせることが必要である。 ■福知山公立大学を魅力的な大学にするには、教育研究経費、一般管理費をもう少し高くしないといけないのではないか。 ■自己財源の増加を図るための外部資金獲得の一つの方策として、基金を作って、ふるさと納税制度として活用してみてもどうか。これは公立大学しかできない制度である。 <p>【役員の報酬等の支給基準について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「役員報酬＝仕事の完成に対する責任の重さ」と考えるが、現在の役員報酬額は、福知山公立大学を成功させるという重い責任に見合った額になっていない。

		<p>■次の役員を決めるときに、現在の役員報酬額では引き受けてくださらないおそれがある。</p> <p>■現在の役員報酬のあり方について、今後の課題として改善を検討すべきである。</p>
--	--	---

5 議題・報告事項（■は委員からの意見 ⇒は市回答）

（1）中期計画について

（市）【資料1～3】【参考1】により説明。

- 【資料2】5頁の「①将来構想の策定」について、将来構想というものはどういうもので、何年くらいを目標に、いつ頃作られるのか。また、将来構想と中期計画がどのようにリンクしていくのか教えていただきたい。
- ⇒平成27年3月に福知山市において、「学びの拠点」基本構想を策定した。この構想が基本となって、福知山公立大学を設置し、進めている。平成33年度には学部学科の再編を行うという計画である。「学びの拠点」基本構想を基本として、社会情勢、大学に求められている状況を踏まえて、この地域に必要な将来像を創っていく。今後、大学において将来構想を策定し、最終年度の平成33年度の学部学科再編のスケジュールを構築していただくという形になる。
- 学部学科の再編計画は、市で一定の構想を策定されているが、今後大学で策定される将来構想が市の構想と異なるものになるということがあり得るのか。
- ⇒「学びの拠点」基本構想を策定した時点では、まだ公立大学法人ができていなかったため、市が将来構想としてお示しさせていただいた。大学に関する専門家や大学を熟知されている方とともに、この地域にどういう学部が必要なのか、どのような法人経営、大学運営が望ましいのかを考えながら、大学と市で連携しながら協議を進め、構想を練り直していきたい。
- 中期計画は平成33年度が最終年度であるが、その後は、大学で将来構想を練っていくということか。
- ⇒「学びの拠点」基本構想では、平成33年度までの6年間に加えて、それ以降のことについても触れているが、まずは平成29年度の教学内容、そして将来の学部学科再編に向けて考えて参りたい。
- 将来構想の年度目標はこれから決めるのか。
- ⇒はい、その予定である。
- 【資料2】13頁の中期目標の中に安全管理に関するものが載っており、年度計画案を見る限り、危機管理体制、情報の危機管理、働かれる方の健康管理の3点があるが、学生の安全対策はどうなっているのか。現在、小学校などは原則部外者が入れないよう対策を施されている。本学は、地域に開かれた大学となる必要があることから、一概には言えないが、全く関係のない悪意を持った人への防止策の観点も必要ではないか。
- また、些細のことだが、ゴシック体の（1）、（2）、ア、イ、ウと明朝体の（1）、（2）ア、イ、ウなど、使い方の区分が難しい。分かりやすい区分をされたほうが

いいのではと考える。

- 私も同意見である。タイトルはゴシック体、文書的に書いてある箇所は明朝体として整理してあるようだが、読む側としては、「(1) ①タイトル (ゴシック体)」と「(1) ①文章 (明朝体)」のレベルが一緒に見える。これには何か意図があるのか。

⇒区分立てはしているが、御指摘のとおり見にくい部分がある。市民の皆様に分かりやすい中期計画となるように、再度チェックさせていただきたい。

危機管理体制については、御指摘のとおり大学内への不法侵入、人的被害などの観点も必要となる。そういった面も含めて、大学内で委員会などを設けながら、それぞれへの対応について個別に検討していきたい。

- 【資料2】7頁「第5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置」で、市民が注目する中で、この大学が経営改善し、「地域に貢献する大学」としてやっていくのは大事なことである。やらなければならないことがたくさんあるが、これをやっていくのは職員である。多くの業務を抱えている職員が意欲的に頑張る体制ができていないと、向上していくのは難しいと考える。また、経営戦略を明確にしないといけない。そうした点で、人材育成は極めて重要であるが、経営戦略的にはどのように考えているか。第5の1「経営体制に関する目標を達成するための措置」に記載されていることは一般的なことが明記されている。福知山公立大学としての具体的な経営戦略があればよいと考える。

【資料2】8頁「人事評価制度の構築と導入」は、組織を動かすには非常に重要であると理解している。人事評価制度は、場合によって教職員の意識低下に繋がりがかねないので、慎重に検討していかなければならない。人事評価制度は、いつ頃から検討、導入し、運用を始める予定なのか。

⇒この大学の設置者として、市も厳しい財政の中、大学経営をしていく。経営戦略としては、本市の意向を認識いただき、経費削減及び効率的な大学運営に向けて取り組んでもらっている。教職員それぞれが高い意識を持って、実績を積み重ねながら、徐々に業務改善をしていくことが重要である。また、新たな外部資金獲得へ向けても取り組んでいきたい。

人材育成については、地域のためになるより良い人材を育成していくという観点で、教職員の的確な人事配置をしていきたい。人事評価制度については、現在検討を進めている段階であり、本市の人事評価制度を参考にさせていただき、早めに施行していきたい。

ただし、人事評価制度等も含め、平成28年度については、大学が発足したばかりということもあり、模索しながら進められているため、具体的に示しにくいということも聴いている。今年度の実績を踏まえ、また、教職員からの意見をお聴きしながら、良い点、悪い点をしっかり見極めていきたい。

- 中期計画、年度計画で表現できない部分が多々あると思うので、動きながら作っていくことになると思うが、その検討結果を、来年度、再来年度にフィードバックしていくことが大切である。

地域に密着する大学として、そして、大学の健全な運営のために、昨年度と同じくらの受験者の獲得、入学者の確保を考えていかなければならない。そうした取組

が年度計画につながる。また、先生方の地域に対する密着度合いも大切。インターンシップ等を通じて、地域の企業、人を知っていただくことも必要である。地域や人を知っていただくことに関しては、大学の活動・運営の中でお願いしていきたい。財務は生き物であるため、毎年状況は変わってくると思う。評価委員会では年度実績に係る点検等は年1回だけということになっているが、年1回の検証だけに限定せず、危機意識を持って日々の点検を大切にしていきたい。

■「地域密着」がどう具体化されるのか。プロジェクト型授業をすることとなっても、全ての先生が取り込まれるとは限らない。そういった先生をどのように取り込んでいくのかというところもしっかり決めて取り組んでいただきたい。

■財務に関する検証は、来年度具体的な数字が出てきた際に、しっかり行ってほしい。
⇒本学は地域密着型大学を特色としており、社会貢献は大学のミッションである。カリキュラムの中で、高大連携や地域協議会などと連携していきたい。まずは今年度連携活動に取り組み、来年度はより具体的な話を進めていきたい。

検証は大事であると考えている。年に1回、年度実績評価において、評価委員会の意見をお聴きし、議会へ報告することが法に規定されているが、年1回だけに限定せず、場合によっては任意で評価委員会を開催し検証いただくことも考えていきたい。

■中期目標・中期計画・年度計画は常にリンクさせることが必要である。

しかし、【資料2】3頁「第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置」の中期目標には「インターンシップに主体的に取り組む」と記述されているが、中期計画や年度計画には書かれていない。

また、【資料2】4頁「⑤地域に開かれた教学環境の構築」においては、公開講座、出前講座等の実施のことが書かれているが、「教育の質の向上に関する目標」に掲げるよりも、「地域協働（地域貢献）の質の向上に関する目標」に掲げるほうが良いのではないかと。

同じく【資料2】5頁「③入学者の受入れに関する目標を達成するための措置」のところで、高大接続システムの動向を踏まえた入試制度を検討するというところに、文部科学省の学力3要素なども取り入れて作成すれば説得力が増すのではないかと。中期計画に書けない部分は年度計画に落とし込むなど、中期計画と年度計画との関連性を強めることが大切である。

さらに、【資料2】5頁（3）②学生支援及び育成 アの「学生支援」は教育的支援なのか、生活支援なのか何を指しているのかが分かりにくい。もし中期計画を修正できるのであれば、例えば「学生生活支援」と言葉で補うと良いのではないかと。

「イ 学生の育成」についても、定義が広く、何を指しているのかが分かりにくい。学生のキャリア支援のほうがいいのではないかと。

⇒確かに御指摘のとおりのところがあるため、御意見を踏まえ、中期計画をより分かりやすい形に見直せるよう検討していきたい。

■【資料2】7頁「第5 1（1）③機動的な学内運営を図る。」という部分は、どのように評価したらいいのかが分からない。きっちり○・△・×という形で評価できるように具体的な項目、指標を作るべきである。

⇒機動的な学内運営という表現についても、御意見を踏まえ、より分かりやすい調整をさせていただきたい。

■中期計画と年度計画の繋がりを見極める必要がある。

■中期計画認可権者として、市から大学側に中期計画、年度計画を修正するように指示を出すことは可能か。

⇒可能である。

■【資料3】11頁の収支計画は36億円程度となっており、教育研究経費、一般管理費を足すと、10億2000万円、6年間で割ると年間1億7000万円である。福知山公立大学を魅力ある大学にしていくためには、確かに財務上、安定的な経営を行うことが必須であり、運営費交付金を最小限とすることは一定理解できる。しかし、果たして、これだけの経費で魅力的な大学にしていくことは可能か。魅力的な大学にするには、教育研究経費、一般管理費をもう少し高くしないとイケないのではないかと感じる。

⇒仰るとおり、大学経営の安定化と魅力的な大学づくりを同時に進めていくというのはなかなか難しい。現段階では、大学運営は市の財政シミュレーションの予算範囲でやっている。無駄な経費は削減し、常に検証を重ねながら、財政健全化に向けて取り組んでいくことが重要である。しかし、定員200名になるまでは財政的に厳しいことは事実である。長期的な計画を立て、また、評価委員会での御意見を踏まえながら、大学運営を管理していきたい。

■【資料2】11頁において、「自己財源の増加に関する目標を達成するための措置」を掲げられているが、設立団体からの運営費交付金が毎年数億円ずつ減らされている公立大学もあり、大学にとって自己財源の確保は大きな課題である。自己財源の増加を図るために外部資金の獲得があげられるが、その一つの方策として、基金を作って、ふるさと納税制度として活用してみてもどうか。これは公立大学しかできない制度である。例えば、市外から入学した学生の保護者にふるさと納税を呼びかける。ふるさと納税をしてもらうためには、学生の教育環境向上のためになど、基金の目的を明確にすることが重要になる。ふるさと納税を中期計画に盛り込まれるかどうかは分からないが、お金がないからこれだけの教育しかできないという考え方ではなく、教育の保障に取り組まなければならない。ふるさと納税の推進のためには、地元企業とのタイアップをしていくことも1つの方策であると考えている。卒業生が出てくると、卒業生からの還元も出てくるかもしれない。

■前回までの評価委員会でも意見を述べたが、中期目標にある「地域社会」とはどの範囲を指すのか。北近畿地域に就職することを前提にしているように読み取れる。

【資料2】7頁「(4) 地域連携体制の構築による安定した就職先の確保」とあるが、就職にあたり、たとえ福知山市以外の地域へ行ったとしても、その就職先の地域課題を解決できるような人材を輩出するというのが本学の役割ではないか。

⇒中期目標でもお示ししたとおり、北近畿地域のみならず、当地域と同様の地域課題を抱える日本全国の様々な地域を舞台に活躍する人材を育成したいというのが本学の思いであるため、北近畿地域に限定したものではない。しかし、御指摘のとおり、北近畿地域に限定した就職先の確保のようにも読み取れるため、表現を再検討

できるかどうかを大学側に申し伝えたい。

- 本日各委員が申し上げた意見を踏まえて、中期計画の表現を修正可能かどうか御検討の上、認可手続きを進めていただきたい。

(2) 役員の報酬等の支給基準について

(市)【資料4・5】により説明。

- 法第49条第2項の規定により、評価委員会は、役員報酬について意見を申し出ることができることとされているので意見を申し上げたい。公立大学の理事報酬は、私の知る限り70万円～100万円程度。私立大学になると、100万円以上だと思う。役員の報酬は、仕事の完成に関わる職務執行の対価だと考えている。つまり、「役員報酬＝仕事の完成に対する責任の重さ」である。そう考えると、個人的には福知山公立大学理事の報酬額は、福知山公立大学を成功させるという重い責任に見合った額になっていないと思うがいかがか。

⇒他大学より低いことは本市も認識しておく。理事の皆様には、今は御無理を言って御理解いただいている。

- 通常の教授の報酬よりも低いのではないか。

⇒低い部分もある。

- 【資料3】11頁の収支計画において、役員人件費が196百万円とあるが、理事3名の基本報酬月額から計算すると高いのではないか。

⇒役員報酬に共済費（法定福利費事業主負担分）が含まれているので、この金額になる。

- 私も役員報酬を見たときに、こんな安い金額で引き受けてくださったのかと思った。経営が安定化するまでは一旦様子を見た上で、将来的には役員報酬額を変更してもいいのではないか。そうでないと、次の役員を決めるときに、この金額では引き受けてくださらないおそれがあると思う。

- 福知山公立大学のスタートでもあったので志のある方に来ていただけたと思うが、任期終了後、他の方が来られるのか心配である。

- 福知山公立大学の創設にあたっての一番大変な時期の役員を引き受けられた方々の責任の重さを考えると、現在の報酬額は明らかに低い。

- 現在、教授の報酬が役員より高いということなので、今のままだと教授から役員になろうとする者はいなくなるのではないか。

- 役員報酬額を変更する場合、決定権はどこにあるのか。

⇒法人の理事会で決めていただける。他大学と比較すると決して高い数字ではない。我々も検討していきたい。

- そうであれば、法人が報酬については決めていただく形でいいのではないかと考える。

- 評価委員会としては、現在の役員報酬のあり方について、今後の課題として改善を検討すべきであることを申し述べておきたい。

(3)その他

(市報告)

6月23日(木)に文部科学省に対し、福知山公立大学の120名定員届出を行い、受理して頂いたことを報告します。

6 閉会

以上